

1. 評価結果概要表

作成日

平成 19年 11月 5日

【評価実施概要】

事業所番号	4079600526
法人名	医療法人 長主病院
事業所名	グループホーム 光
所在地	福岡県田川郡川崎町大字田原1121 〒 827-0004 (電話) 0947-72-7410

評価機関名	社会福祉法人 福岡市社会福祉協議会		
所在地	福岡市中央区荒戸3-3-39		
訪問調査日	平成19年10月22日	評価確定日	平成19年12月3日

【情報提供票より】(平成 運営推進会議を、ホームが抱える課題への意見交換)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 16 年 8 月 17 日				
ユニット数	2 ユニット		利用定員数計		18 人
職員数	14 人	常勤	14 人	非常勤	人 常勤換算 14 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋 造り
	2 階建ての ~ 1,2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	39,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有 (円)	○ 無	
保証金の有無 (一時金を含む)	有 (円) ○ 無	有の場合 償還の有無	有 無
食材料費	朝 食 円 夕 食 円 または1日あたり 1,100 円程度	昼 食 円 おやつ 円	

(4) 利用者の概要(10月 1日現在)

登録人数	18 名	男性	1 名	女性	17 名
要介護 1	4 名	要介護 2	4 名		
要介護 3	5 名	要介護 4	4 名		
要介護 5	0 名				
要支援 1	名	要支援 2	名		
年齢	平均 86,4 歳	最低 75 歳	最高 94 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 長主病院、井手口歯科
---------	-----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは静かな田園地帯に位置し、日当たりも見晴らしも良く、環境に恵まれている。リビングには大きな窓がしつらえられており、窓の外にひろがる風景やユニット出入り口に飾られている季節の草花より、季節の移ろいを感じることができる。母体である病院に隣接して建てられているため、入居者の状態や体調の把握が密になされており、緊急時における24時間の医師と看護師によるバックアップ体制は、ホーム職員及び家族の心強い支えとなっている。管理者も職員も一体となって、入居者が自分のペースでゆっくりと過ごせるように一生懸命支援をしている。入居者の顔色も明るく、洗濯物たたみ、日めくり、配膳など、入居者間で自然発生的に役割ができあがり、生きがいを見出している。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回の外部評価結果を基に、職員間で協議し、個人日誌の書き方を見直したり、地域との連携を図るように努めるなど、具体的な改善が見られる。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 今回の外部評価を受けるにあたり、再度外部評価内容について話し合うなど、職員を交えた取組みがある。
重点項目	運営推進協議会の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 運営推進会議において、外部評価結果の報告や状況報告を行い、子供会や敬老会の情報を提供していただき、連携を図るなどの取組みがある。ただし、運営推進会議の継続的な開催には至っていない。運営推進会議を、ホームが抱える課題への意見交換、地域とホームの相互にとって有益な話し合いの場となるように活用していただき、定期的・継続的に取り組んでほしい。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9) 面会時の声かけ、その都度の報告や定期的な連絡、季節毎のホームたよりに、日常の様子やお知らせ、入居者一人ひとりの様子を記入しての報告等を通じて、家族の思いや意見等の表出に努め、ミーティングで協議するなどの取組みがある。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 日々の散歩時や買い物時の挨拶、ホーム菜園へのアドバイス、子供会や幼稚園児、地域ボランティア、入居者の知人の方の来所など、日常の中で地域との交流に取り組んでいる。

2. 調査報告(詳細)

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続ける ことを支えていくサービスとして、事業 所独自の理念をつくりあげている	職員で協議して理念を作成している。地域出 身の入居者が大半を占めており、日常的に地域 の人々との交流の取組みがある。	○	地域の中でその人らしく生活することを支 えるケアのあり方について、現在取り組まれ ている具体的な内容を反映した理念となるよ う再検討してほしい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の 実践に向けて日々取り組んでいる	毎日のミーティングにて、理念について説明 するなど、理念の浸透を図る取組みがある。		
2 地域との支え合い					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員と して、自治会、老人会、行事等、地域活 動に参加し、地元の人々と交流するこ とに努めている	日々の散歩時や買い物時の挨拶、ホーム菜園 へのアドバイス、子供会や幼稚園児、地域ボラ ンティア、入居者の知人の方の来所など、日常 の中で地域との交流に取り組んでいる。		
3 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及 び外部評価を実施する意義を理解し、評 価を活かして具体的な改善に取り組んで いる	前回の外部評価結果を基に、職員間で協議 し、個人日誌の書き方を見直したり、地域との 連携を図るように努めるなど、具体的な改善が 見られる。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの 実際、評価への取り組み状況等について 報告や話し合いを行い、そこでの意見を サービス向上に活かしている	運営推進会議において、外部評価結果の報告 や状況報告を行い、子供会や敬老会の情報を提 供していただき、連携を図るなどの取組みがある。 ただし、運営推進会議は、昨年度に1度開 催されたのみであり、継続的な開催には至って いない。	○	運営推進会議を、ホームが抱える課題への 意見交換、地域とホームの相互にとって有益 な話し合いの場となるように活用していただ き、定期的・継続的に取り組んでほしい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会 議以外にも行き来する機会をつくり、市 町村とともにサービスの質の向上に取り 組んでいる	運営推進会議への行政担当者の出席はある が、運営推進会議が1度開催されたのみで あり、それ以後の連携は図られていない。	○	外部評価結果の提出、事業所見学会や行事 開催の提案等、ホーム側から積極的に情報を 発信し、行政担当者や地域包括支援センター 職員等と連携がとれる関係作りへ積極的に取 組んでほしい。
7 追加	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や 成年後見制度について学ぶ機会を持ち、 個々の必要性を関係者と話し合い、必要 な人にはそれらを活用できるよう支援し ている	必要と思われる入居者の方に対して、制度の 説明を行っている。職員への制度の理解のため の勉強会等への取組みは行われていない。	○	認知症専門機関としての情報発信機能の意 味においても、運営推進会議での説明やパン フレットを用いた説明を繰返し、制度の正し い理解と周知に努めてほしい。また、勉強会 等を通じて職員への制度についての理解の促 進を図ってほしい。
4 理念を実践するための体制					
8 (7)	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康 状態、金銭管理、職員の異動等につい て、家族等に定期的及び個々にあわせた 報告をしている	家族の面会時の報告やその都度の報告があ る。季節毎のホームたよりに、日常の様子やお 知らせ、入居者一人ひとりの様子を記入して報 告するなどの取組みがある。		
9 (8)	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や 職員ならびに外部者へ表せる機会を設 け、それらを運営に反映させている	面会時の声かけ、その都度の報告や定期的な 連絡等を通じて家族の思いや意見等の表出に努 め、ミーティングで協議するなどの取組みがあ る。		
10 (9)	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職 員による支援を受けられるように、異動 や離職を必要最小限に抑える努力をし、 代わる場合は、利用者へのダメージを防 ぐ配慮をしている	新しい職員が入った時は、入居者に対してき ちんと挨拶・紹介を行い、新しい職員が孤立し ないように馴染みの職員が間に立つなど、馴染 みの関係作りへの工夫がある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5 人材の育成と支援					
11	19 追加	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の採用に関しては、年齢や性別等による制限は何ら行われていない。職員の性格や特技分野を見極めて各係りに役割づけるなどの対応がある。		
12	20 追加	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	ミーティング時等に、尊厳についてなど認知症高齢者への対応等を通じての取り組みはあるが、広く職員の人権意識を喚起するような勉強会や研修などへの取り組みまでには至っていない。	○	認知症の方をケアする職員の基本的資質として人権意識が必要であり、その基本的資質である人権意識を喚起する意味においても、行政等で行われる研修や講話への参加、出前講座の利用など、積極的に取り組んでほしい。
13 (10)	21 (19)	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の案内の掲示閲覧を通して、研修参加への機会の確保と研修参加の実績がある。併設病院との合同での勉強会、全体ミーティング時での勉強会など、内部での勉強会への取り組みがある。		
14 (11)	22 (20)	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新しい職員が入職した際に、他のグループホームへ研修に行くなどの取り組みはあるが、新しい職員が入職した場合のみの取り組みであり、計画的・継続的な交流は今後の課題である。	○	現在取り組まれている交流を一步深めて、新人職員の入職時のみではなく、計画的・継続的な職員レベルでの見学や相互実習、情報交換等に取り組んでほしい。

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15 (12)	28 (26)	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居したての方に対しては、頻繁な声かけを行うなどかわりを多く持ち、孤立しないように配慮するなど、精神的安定をはかり馴染みの関係づくりを築くための工夫がある。		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16 (13)	29 (27)	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	物を大切にする気持ち、家族への思い、入居者同士の気づかいなど、人生の先輩として、日常のかかわりを通して自然と学び支えあう関係づくりへの取組みがある。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1 一人ひとりの把握					
17 (14)	35 (33)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常のかかわりを通して、入居者の思いや希望の把握に努めている。家族の面会時に入居者本人の思いを伝え、家族の意向を確認するなどの取組みがある。		
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18 (15)	38 (36)	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	アセスメント時に本人・家族の希望や意向を把握し、職員・施設長交えての協議を行い、介護計画書を作成している。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
19 (16)	39 (37)	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行う とともに、見直し以前に対応できない変 化が生じた場合は、本人、家族、必要な 関係者と話し合い、現状に即した新たな 計画を作成している	毎日、ミーティングを行い、その時々の状況 や対応等についての協議がある。月に1度の全 体ミーティング時に、職員間の意見の統一を図 る取り組みがある。		
3 多機能性を活かした柔軟な支援					
20 (17)	41 (39)	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に 応じて、事業所の多機能性を活かした柔 軟な支援をしている	必要時の通院介助、点滴療養など柔軟に対応 している。地域住民からの認知症や介護保険に ついての相談に対応するなどの取り組みがある。		
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21 (18)	45 (43)	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納 得が得られたかかりつけ医と事業所の関 係を築きながら、適切な医療を受けられ るように支援している	事業所としての協力病院であるが、入居者の いままでのかかりつけ医を尊重しての対応があ る。基本は家族対応にての受診であるが、家族 対応が難しい場合はホームで対応している。何 かあれば、その都度協力病院に相談するなど、 適切な医療受診のための取り組みがある。		
22 (19)	49 (47)	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方につ いて、できるだけ早い段階から本人や家 族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し 話し合い、全員で方針を共有している	ギリギリまでホームで看る方針であり、契約 時に重度化した場合の話がされており、日常の かわりを通じて意向を確認するなどの取組み がある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1 その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23 (20)	52 (50)	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損 ねるような言葉かけや対応、記録等の個 人情報の取り扱いをしていない	職員は入居者の様子を良く観察しており、タ イミングを見計らってのさりげない声かけ、丁 寧な呼称、視線を合わせて笑顔で傾聴するな ど、入居者の誇りやプライバシーに配慮した対 応が見られた。		
24 (21)	54 (52)	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するの ではなく、一人ひとりのペースを大切に し、その日をどのように過ごしたいか、 希望にそって支援している	入居者一人ひとりの生活リズムに配慮して、 食事にかかる時間、居室やリビングでの過ごし 方など、入居者のペースに寄り添った対応が見 られた。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25 (22)	56 (54)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人 ひとりの好みや力を活かしながら、利用 者と職員と一緒に準備や食事、片付けを している	職員は入居者と一緒に食事をとりにぎやかな 食事風景であった。食器の位置を変えたり、優 しく声かけするなど、食事が楽しみとなるよう な工夫がある。テーブル拭きや下膳など入居者 の出来ることへの取り組みがある。		
26 (23)	59 (57)	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてし まわずに、一人ひとりの希望やタイミ ングに合わせて、入浴を楽しめるように支 援している	基本は2日に1度の入浴であるが、菜園の手入 れの後や外出後等の希望による入浴が可能であ る。入浴にかかる時間や好みの湯温の設定な ど、入居者の希望に応じた対応がある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27 (24)	61 (59)	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物たたみ、日めくり係り、ランチオンマット係り、配膳係りなど、入居者間で自然に役割が出来あがっており、職員は、その役割を尊重して支援している。		
28 (25)	63 (61)	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	月に2回の買い物デーの設定、季節やイベント毎の外出、入居者の希望によるその都度の外出など、戸外に出かける機会をみつけての支援がある。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29 (26)	68 (66)	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は常に開錠されている。職員は入居者の様子を良く観察したうえで外出傾向を察知し、さりげない声かけや一緒に散歩に出かけるなどの対応がある。ユニット出入口にはチャイムを設置するなど、安全面への配慮がある。		
30 (27)	73 (71)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	隣組に加入するなど日常的な地域の人々との交流を通して、何かあれば協力が得られる体制である。	○	災害時の緊急時に地域の協力が得られるよう、運営推進会議を利用して働きかけを行うなど、更なる体制作りへ取り組んでほしい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31 (28)	79 (77)	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の食事摂取量を把握し、水分摂取への頻繁な声かけと水分チェックにより、水分摂取量の把握や確保に努めている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32 (29)	83 (81)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには大きな窓がしつらえられており、窓の外にひろがる風景やユニット出入り口に飾られている季節の草花より、季節の移ろいを感じることができる。キッチンからは食事の用意の音が聞こえ、匂いを感じることができ、生活感を味わうことができる。		
33 (30)	85 (83)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個々の入居者の居室には、仏壇、写真、趣味の品、TV、衣装ケースなどの思い出の品や馴染みの品が持ち込まれており、入居者一人ひとりの個性が伺える居室であった。		

 は、重点項目。
(数字)は、国の標準例による番号